



# みんなのひろば

# 志



谷野 正  
(平田)

## 先憂後楽とは

元町職員として、私が最近興味を  
持っている、中国古代文学の一節を申  
し述べたい。

北宋時代の大政治家「宰相 范仲淹」  
の「岳陽樓記」の有名な語録「先憂後  
楽」の詩を考えてみたい。詩の意味

は、「先に汗をかき苦勞しておけば、  
後で必ず幸せが訪れる」ということ  
である。

これは町政に相通することがあろ  
う。本町でも高齢者は増加の一途で、  
立場の弱い者を含めると、町政に参

画が困難な人々は年々増えつつある  
と思われる。いかに声なき声を吸い  
上げ、行政に反映できるかが課題の  
ひとつである。

各議員には、町民とのパイプ役と  
して、また町民の代弁者として、多く  
の人々と意見交換をしてもらいた  
い。おおいに汗をかいてもうえば、将  
来必ず幸せが訪れるだろう。

町民、議会、行政の連携のとれた、住  
みよい町づくりを進めようではないか。



峰地 正文  
(八重)

## 「峰地光重展」に寄せて

4月から町内各所で、「峰地光重  
展」(パート1)が開催されている。町  
立図書館長の船原氏をはじめ、多く  
の人々のご尽力によるものである。  
平成18・19年、鳥取・倉吉・米子で祖  
父の展示があった。前者を町内版と

すれば、後者は県内版といえる。  
死去後46年が経過するのに、祖父  
は忘れられるどころか、ますます輝  
きを増しているといった感じである。  
私は今回の展示を機に「生活綴方  
生成史」(佐々井秀緒著)などを読み、

生活綴方運動を再見しているところ  
である。弾圧した治安維持法を天下  
の悪法とするなら、生活綴方運動は  
児童・生徒を信頼し愛する、この上  
ない良心的な教育運動なのである。  
「峰地光重展」パート2・パート3  
も予定されている。



齋藤 富夫  
(西坪)

## 農村の風景を 考える

私の住む西坪は、古くは専業農家  
の集落であり、昭和20年代では80%  
が専業農家でした。時代の変貌と共  
に専業農家が減少し、平成に入り  
24%に、現在では専業農家は5%を  
下回る状況となりました。

こうした中、耕作放棄地も点在す  
る状況となり、平成20年に国の制度  
を活用し、「農地・水環境保全管理支  
払制度」に参加し、「西坪地区環境保  
全会」を設立しました。交付金もあ  
り、役員スタッフ・住民の団結で、農

道・用水路・ため池の補修、整備を進  
めています。また、国の制度の「人・農  
地プラン」を活用し、他集落の担い手  
に協力を求め、水田・畑の耕作をお  
願ひしており、クズ畑、アワダチソウ  
畑も減少しました。  
用水路には、エビ・魚貝類もみら  
れ、たくさんのおタルが戻ってくるの  
を楽しみにしています。

## 商工会主催の花火大会

## あとがき

6月定例会の終盤、東京  
都議会でのヤジが世間を騒  
がせた。女性を蔑視し、人権  
を侵害する内容に、心を痛め  
た人も多かったであろう。

このような行為の責任は  
もちろん発言した議員にあ  
る。しかしながら、その議員  
を選んだのは誰なのか。それ  
を忘れてはいけない。

無投票でない限り、議員は  
直接選挙で住民によって選ば  
れる。したがって、責任の一端  
は、投票した有権者にあると  
も言えないか。我々、議員自  
身の質を高める努力も大切  
だが、有権者にも本質を見抜  
く力を養っていただきたい。  
選挙の意義を、あらためて  
考える機会になればと願う  
ばかりである。

加藤

### 【発行責任者】

議長 野口 俊明

### 【広報常任委員会】

- 委員長 大森 正治
- 委員長 米本 隆記
- 委員長 米本 隆記
- 委員長 圓岡 伸夫
- 委員長 大村 正彦
- 委員長 大原 広巳
- 委員長 加藤 紀之